

再検診、禁煙支援も 琉信ハウジングがグランプリ

がんじゅうさびら表彰



健康づくりに積極的に
取り組む事業所を広く紹

介しようという県の「がんじゅうさびら表彰」の本年度のグランプリに、琉信ハウジング（那覇

がんじゅうさびら表彰のグランプリ受賞を喜ぶ琉信ハウジングの城間泰社長（中央）10日、那覇市松山

市）が選ばれた。3カ月ごとに健康経営の担当者を集めた会議を開き、社員の要望を踏まえて多様な健康づくり支援策を打ち出している。

禁煙パッチに上限1万円の補助、ジムで運動を始めたら月2千円の補助、部署ごとや個人で競うウォーキングイベント、サラダを特別価格で買える冷蔵庫。社員に健康づくりを促すメニューがずらりと並ぶ。

城間泰社長が2022年の就任時、全社員約1

が、「本人や周囲のためだし、何より家族のため」と押し切った。9人が卒煙し、4人が禁煙の取り組みを続けている。

10人の健康カルテを見ると、喫煙率が34%と高く、メタボリックシンドローム該当者も多かった。「健康リスクがあつては十分なパフォーマンスを発揮できない」と、健康経営を打ち出した。「経費ではなく投資と考えている」とも。前職の銀行役員だった当時、

仕事第一で体を壊し、退職した行員がいたことも健康重視のきっかけという。健康診断の2次検査は有給扱いで受診を奨励。本年度は該当の54人のうち既に30人が受診し、4人が予約済みだ。

喫煙場所の撤去には不満の声もあったという

9日に表彰式があつた。受賞を喜ぶ城間社長は「自分の健康や人生を考える時間を持つことが大切」と話す。（宮沢之祐）